

令和3年度  
文部科学省事業  
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）  
研究開発実施報告書（第3年次）

世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築



長野県白馬高等学校  
Hakuba High School



## グラビアページ ～ 地域協働で実施した取り組み

### 地域課題の研究【観光Ⅰ・探究基礎】



地域課題の見つけ方（講義） 協力：地元企業の方



なぜ探究は必要か？（講義） 協力：地元企業の方



北アルプス山麓ブランド（講義） 協力：宮沢さん（地元県議）



観光施設見学 協力：八方尾根開発株式会社

### 高校生ホテル・高校生レストラン【観光Ⅱ・観光コミュ英語・家庭総合】 協力：白馬東急ホテル・しろうま荘 シェラリゾート白馬・丸金旅館



ホテル講義【グローバル観光】 協力：白馬東急ホテル



街頭英語インタビュー【英会話】 八方バスターミナル



English ツアーガイド【観光Ⅱ， 観コミ英語、 観光地理】 白馬村内、野猿公苑、善光寺、松本城、安曇野わさび園ほか  
協力：地元の在住外国人の方々ほか



English Day 【全学年】 / Hakuba High School Cultural Fair 【総合英語】 協力：地元の在住外国人の方々



地域応援 10代 SKY フェス【スポーツビジネス】 協力：岩岳リゾートほか



環境巡検・地域実習【環境Ⅰ，環境Ⅱ，環境】

協力：地元農家さん、農業支援員、地域おこし協力隊ほか。



保育体験【発達保育】 協力：しろうま保育園

地元食材調理実習【家庭総合】 協力：白馬東急ホテル



登山道整備【山岳基礎】 協力：小谷山案内人組合

就労体験【1年総合】 協力：地元企業14社



SDGs ワークショップ【2年総合、LHR】 協力：地元アウトドアウェア専門店ほか



小谷白馬ガイドブック作り【国語表現】  
協力：白馬村観光局、地元在住者



SDGs 出前授業【PBL クラブ】  
出前先：小谷中学校ほか



気候マーチ【PBL クラブ】 協力：白馬 SDGs ラボほか



断熱プロジェクト【PBL クラブ】 協力：地元工務店ほか



マイボトルプロジェクト【PBLクラブ】



PBL合宿【PBLクラブ】 協力：白馬SDGsラボほか



単位取得型企业実習【デュアル実習】 協力：地元企業6社



学校交流【浜松開誠館高校との連携】



各種ボランティア活動



< 5月 塩の道祭り (白馬村・小谷村) >

白馬ビジョンデザインブートキャンプ【PBLクラブ】



介護の仕事【2年LHR】 協力：大町保険福祉事務所ほか



地域活動の評価【信州おもてなし大賞受賞】



【糸魚川高校との交流授業】



< 5月 酒米田植え (八方尾根観光協会) >



< 5月 車いす田植えのお手伝い (八方尾根観光協会) >



< 6月 特定外来植物の駆除 (オオキンケイギク駆除協力隊) >



< 7月 登山道整備 (白馬五竜観光協会) >



< 7~8月 駅ホームで信州 DC キャンペーン (JR 白馬駅) >



< 9月 白馬村運動会アナウンスほか (白馬村) >



< 9月 サイクルスポーツフェスティバル (白馬五竜観光協会) >



< 10月 ハロウィン交通整理ほか (みそらの地区実行委) >



< 10月 BMW モトラッド フラッグ係りほか (BMW) >



< 10月 PTA 祭り運営のお手伝い (白馬南小学校) >



< 11月 車いすスポーツ体験 (白馬五竜観光協会ほか) >



<11月 社会福祉大会（社会福祉協議会・生徒会）>



<12月 白馬っ子の恩返し（生徒会）>



<1月 岩岳夜祭通訳ほか（岩岳観光協会）>



<2月「五竜ナイト」おもてなし通訳（白馬五竜観光協会）>

国際交流 R1年度は来日高校生と対面交流、R2,R3年度はオンライン交流 協力：白馬五竜観光協会ほか



<British School in Tokyo の生徒の授業体験>



<マレーシア高校生との交流>



<ベトナムの台湾学校の生徒とオンライン交流>



<北米の高校生とオンライン交流（カケハシプロジェクト）>



<台湾の高校生と中国語交流（Asian Language の授業）>



<台湾の高校生に課題研究の発表（1年生探求の授業）>

## グローバル講演会

(一般の方も参加できる公開講演会)

協力：山麓事務組合白馬高校支援係



<清水まなぶさん (シンガーソングライター、長野市出身) >



<辻井隆行さん (パタゴニア日本支店長) >



<和田寛さん (岩岳リゾート代表) >



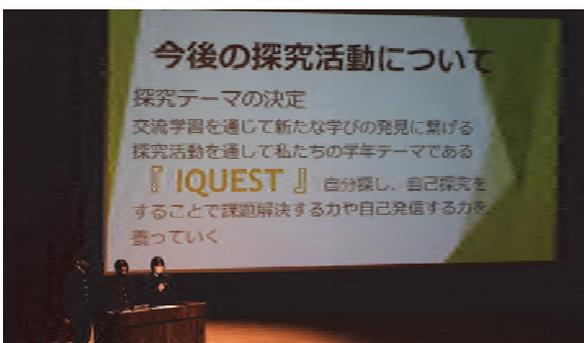
<山口進さん (昆虫植物写真家) >



<福島のり子さん (オリンピック、白馬高校OG) >

## 白馬フォーラム

(地域に向けた白馬高校1年間の学習発表会)



## 学びの場の共創にむけて

長野県白馬高等学校

校長 関 正 浩

2019年の暮れ、忽然と姿を現した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中にまん延し、私たちの日常の生活様式をすっかり変えてしまいました。学校現場においても、入学式や卒業式をはじめ、文化祭や修学旅行など各種行事が中止や変更を余儀なくされたほか、本校の特色である多彩な探究フィールドワークも様々な形で影響を受けました。

このような危機的ともいえる状況に置かれながらも、コンソーシアムをはじめとする地域の皆様の熱い思いと学びを諦めない生徒の志に支えられて、この3年間、試行錯誤を繰り返しながら、この白馬・小谷地域ならではの取り組みを進めてくることができました。一番制約を受けたのは対面による実践・交流でしたが、ICTの活用によってオンラインでの交流に代えることや少人数グループでの実践に変更することなどで何とか実施にこぎつけたものも多々あります。思うようにならないことに直面した時、何が、どこまで、どうすればできるのかという思考を巡らせた経験は、教員である私たちはもちろん、一緒に学びを進めてきた生徒たちにとっても、これからの生活において大いに役立つであろうと思っております。

生徒の成長を象徴する事例を3つ紹介したいと思います。まず、地域をフィールドにした学習活動を推進する「白馬SDGsラボ」での活動を起点とした、2019年の気候変動マーチです。この活動は、地域住民や行政を巻き込んだ一大プロジェクトとなり、県内自治体では初となる、白馬村の気候非常事態宣言発出の契機となりました。環境への関心は、2020年の断熱プロジェクトへと発展します。ここでは生徒と地域の大人とが知恵と力を合わせて学びの空間を共創しました。この二つの取り組みでは、SDGsという言葉が地域を一つにまとめたわけですが、このことは今後地域と学校が協働して活動していくときの重要な観点となると思われます。3つ目は、コロナ禍であえぐ地域を若者の力で元気にしたいとの願いから実現した2021年の地域応援SKYフェスです。自分の枠を超えて地域の大人と対話し、未知の課題を克服しながら自走し続ける生徒たちの姿はとてもまぶしいものでした。

すべてが首尾よくいったわけではありませんが、3年間の活動を通じて、自己肯定感と高校に対する満足度を高めた生徒が高い割合となった\*ことは大きな収穫でした。地域と協働した学びによって成長し、地域に愛着を持った生徒たちが、やがて社会で活躍し、それぞれの立場からこの地域を支える力となる、そうした姿を見て本校に集う生徒が増える、そうした循環ができあがるまでにはまだまだ時間がかかりますが、今後は地域の小中学校との連携も強めて、地域と対話する学びの場の一層の拡充に努めてまいりたいと考えています。

本報告書は、3年間の研究成果をまとめたものです。ご高覧いただき、ご教示賜れば幸いに存じます。最後となりましたが、本校の研究にご支援とご指導をいただいた関係の皆様すべてに感謝と御礼を申し上げます。

\*高校魅力化評価システム組織診断ポートフォリオ(2021)による



## 目 次

グラビアページ ～ 地域協働で実施した取り組み

巻頭言

I	本事業の概要	
1	研究開発の概要	2
2	研究開発概念図	5
3	ロジックモデル	6
II	研究開発実施計画	7
III	仮説 I に関する活動内容	
○	チームビルディング	13
○	教科学習	
1	地域の自然環境の活用した取り組み	14
2	国際交流・異文化理解に関する取組	18
3	観光に関する取り組み	20
4	地域の人、企業、団体との取り組み	26
○	PBL (Project Based Learning)	
1	総合的探究の時間 1 年	43
2	総合的探究の時間 2 年	45
○	成果発表	
1	白馬フォーラム～学習成果発表会～	47
2	各種イベントセミナーでの発表	47
IV	仮説 II に関する活動内容	
1	「地域と暮らしのゼロカーボン勉強会」	51
2	生徒の自主的な活動	52
V	その他の活動	54
VI	目標の進捗状況、成果、評価	55
VII	運営指導委員会	57
VIII	コンソーシアム	71
IX	高校魅力化評価システム 組織診断ポートフォリオ	75

# I 本事業の概要

## 1 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ながのけんはくばこうとうがっこう				②所在都道府県	長野県
2019～2021	①学校名	長野県白馬高等学校				県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年，普通科1クラス，国際観光科1クラス，全校6クラスの小規模校	
普通科	34	28	36				
国際観光科	40	39	33				
⑥研究開発構想名	世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築						
⑦研究開発の概要	① PBL の実践を通してのカリキュラム，アセスメントの開発 ② 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬 SDGs ラボ」の設置 ③ 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標 地域と協働した学びにより，白馬で成長した生徒が，この地域を支え，あるいは世界を舞台に活躍し，その姿を見た生徒がまた白馬に集う。そのような好循環を永続的に生み出せる学校にすることを目的とする。					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説 ① 学校の現状と課題 本校は大自然に囲まれた国際色豊かな白馬というフィールドを活かし，普通科では，白馬の自然環境を活かしたフィールドワークや，野外自然体験学習を行っている。国際観光科では，地元の外国人との交流を通し，観光を題材にした実践的な英語の学習や，高校生が宿泊施設の宿泊プランの企画から運営までを行う高校生ホテル実習などの取組を行っている。 国際観光科は平成28年度に開設され，全国募集を行っている。全校生徒のうち県内外からの生徒は20.9%，県内他地区からの生徒は16.1%である。また，県外生徒，県内他地区からの生徒は，寮や下宿で生活をしている。そのため，地域にある高校でありながら，県外や県内他地区からの生徒が多く，多様な地域の出身者が在籍している。 課題として，将来白馬で生活をしたいという生徒が少ない状況である。今年度の3年生の卒業後の進路として，白馬小谷地域に就職する生徒の割合は，わずか3人（4.0%）である。					
		② 地域の現状と課題 白馬村は，人口約9,000人規模の日本有数のリゾート地であり，この10年で外国人旅行者は急増し，昨シーズンのスキー場への来場者は35万人を超えた。外国人の移住も多く，人口に占める外国人の割合は6.2%と，長野県内で一番比率が高い。一方で課題として，民宿やペンションオーナーの高齢化と事業継承の問題がある。民宿やペンションは個人経営や家族経営が多く，労働環境も厳しいところが多い。跡継ぎになる子どもの多くは大学進学の際に都市部へ出て，そのまま就職している。					

	<p>(3) 課題を解決するための主な仮説</p> <p>① 既存のカリキュラムを体系化し、地域課題を解決するための PBL を実施することで、生徒の学習集活動に対する当事者意識と課題解決の力が高まる。</p> <p>② 生徒と地域の人が実践活動を行う場「白馬 SDGs ラボ」を設置することで、地域全体で社会問題についての関心が高まり、地域の人と生徒が地域の未来について考えることができる。</p> <p>③ 生徒が地域をフィールドにした PBL を通して地域について学び、地域の人と関わることで、生徒の白馬・小谷地域に対する愛着が高まる。</p>
<p>⑧- 2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画 各学年で協働性をもつチームとして当事者意識を高め、資料を読み解く力、情報・収集分析力を身に付けたうえで、地域課題をテーマにした PBL を実施する。教科学習においては、地域を題材にし、学ぶ内容と社会を関連付けて行う。</p> <p>仮説 1 教科横断型の学びと PBL ができるカリキュラムの確立と、生徒が主体的に学びたい環境の整備 PBL の実践を通してのカリキュラム、アセスメントの開発</p> <p>1 年次 (2019 年度) 国際観光科 2 年「観光Ⅱ」を中心に教科横断型 PBL の授業 (観光Ⅱ, 観光コミュニケーション英語, 家庭総合, 総合的な探究の時間)</p> <p>2 年次 (2020 年度) パフォーマンス評価, ルーブリック評価に関する研究と各授業での実験 (総合的な探究の時間, 観光Ⅰ, 観光コミュニケーション英語, 観光Ⅱ, グローバル観光)</p> <p>3 年次 (2021 年度) 教科横断型 PBL の実施と育てたい生徒像に対応するアセスメントの完成</p> <p>仮説 2 生徒と地域の人が SDGs をテーマに学び、実践活動を行う「白馬 SDGs ラボ」の設置 SDGs ワークショップの開催及び SDGs の目標 13「気候変動を軽減させる取り組み」の実践</p> <p>仮説 3 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬コンソーシアム」の設置</p> <p>a カリキュラム, アセスメント開発, 授業実践に関わるサポート b 地域での活動における講師派遣, 協働事業の実施 c 英語教育, 国際交流のサポート。グローバル教育 (国際バカロレア, イエナプラン教育, PBL) に関する見地の情報共有, 研修。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>① 校内実行委員会で、授業プランの企画, アセスメントの例示, 地域連携の仲介を行い、授業担当者は該当授業で育てたい生徒像と教科学習の内容を反映したアセスメントを開発し、授業を実施する。</p> <p>② 授業担当者は、実施した授業についてリフレクションを行い、校内実行委員会へフィードバックを行う。</p> <p>③ 校内実行委員会は、授業担当者からのフィードバックをもとに修正, 改善を行い、全体の授業プランに反映させる。</p> <p>④ ①～③の過程を繰り返し行いながら、教育課程委員会とともに、シラバスを作成し、カリキュラム化していく。</p>

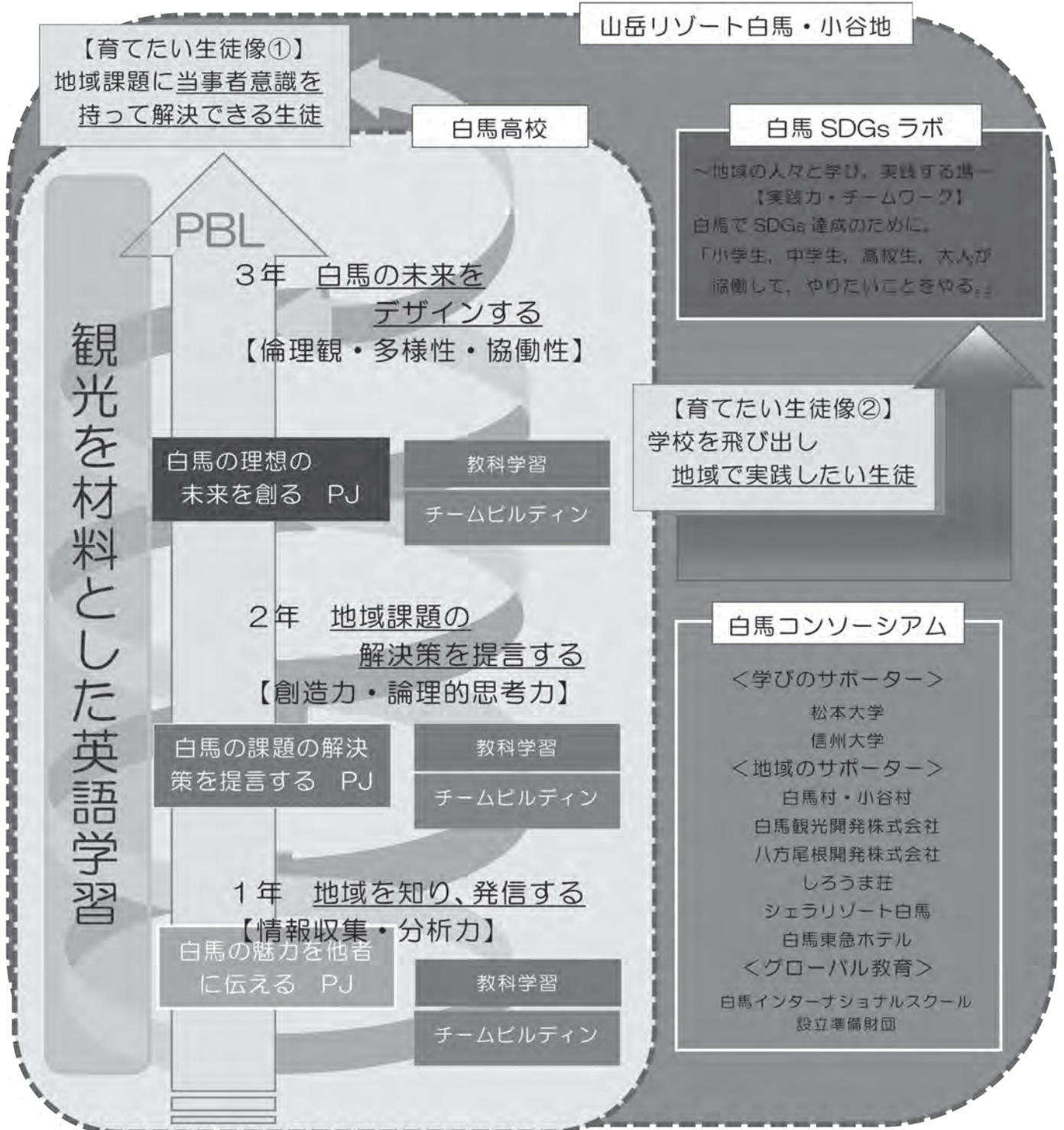
		<p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特記なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成 30 年度に実施した「高校生ホテル」では、英語科の「観光コミュニケーション英語」と商業・地理歴史科の「観光Ⅱ」の授業を連動させ、教科横断的な学びを行い、教科融合型の PBL の試験導入を行った。効果として、授業で学んだことを生徒が高校生ホテルのお客さんへのサービスという形で提供し、その場でお客さんの様々な反応を見ることで、自分の学びと実社会とのつながりを体験できた。</p>	



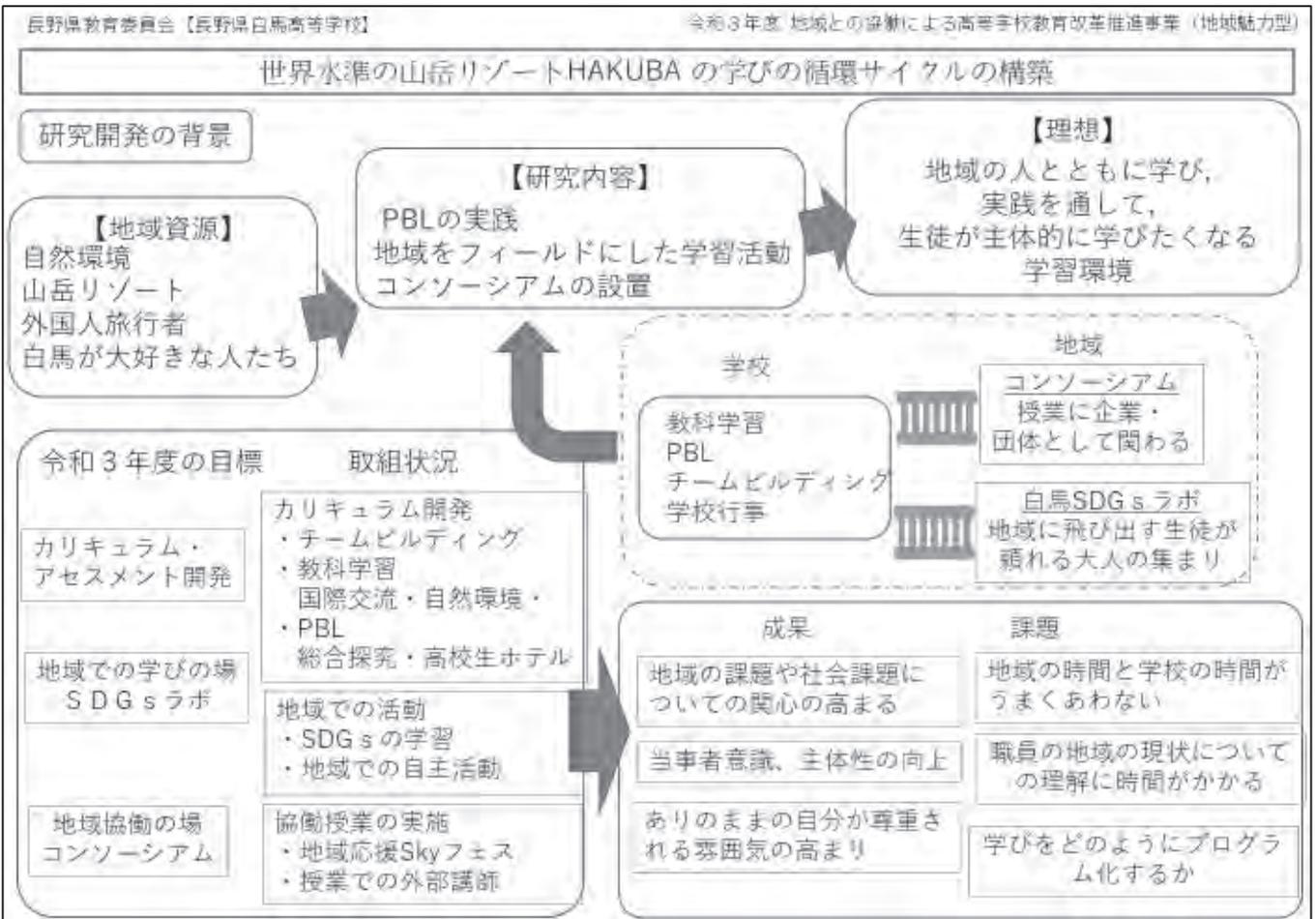
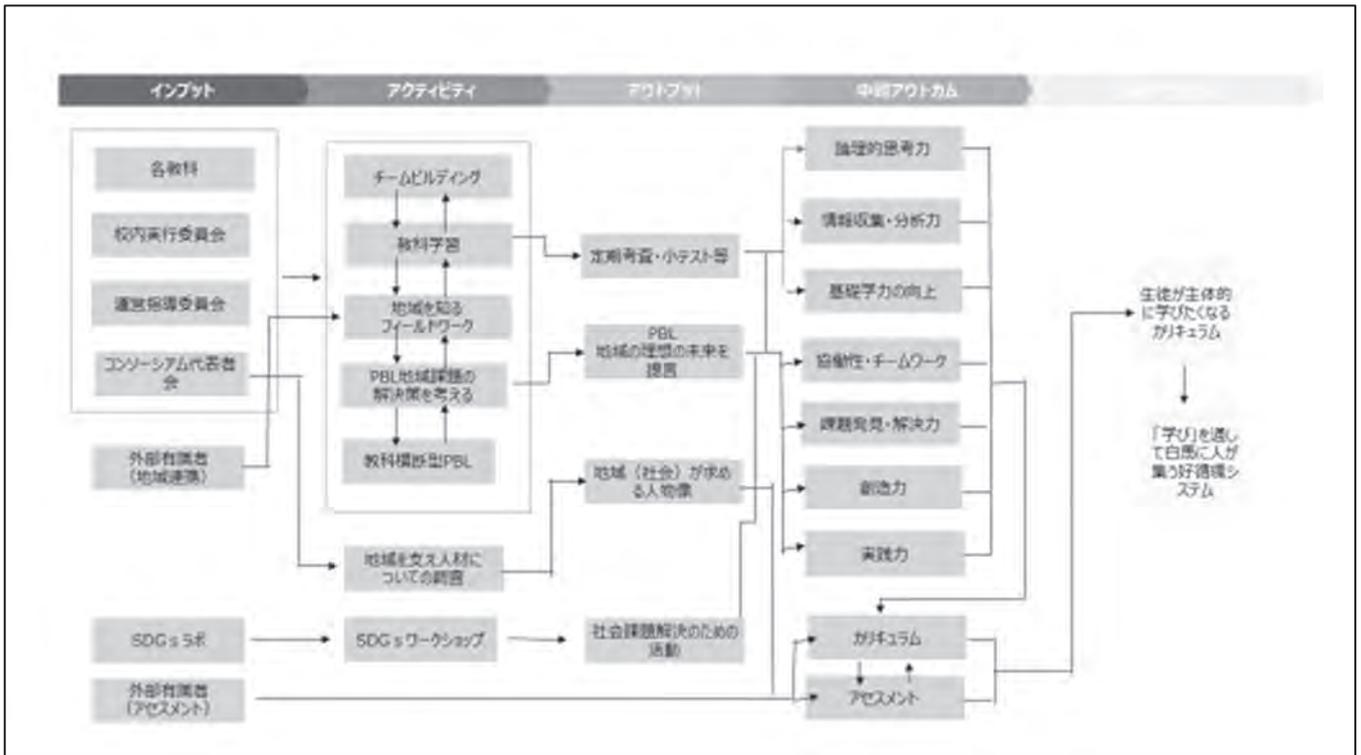
世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築

目指す学校像

地域と協働した学びにより白馬で成長した生徒が、この地域を支え、あるいは世界を舞台に活躍し、その姿を見た生徒がまた白馬に集う。そのような好循環を永続的に生み出せる学校。



### 3 ロジックモデル



## II 研究開発計画

令和3年1月28日

### 研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 長野県長野市大字南長野字幅下 692-2  
管理機関名 長野県教育委員会  
代表者 教育長 原山 隆一 印

#### 1 指定校名・類型

学校名 長野県白馬高等学校  
学校長名 臼井 彰一  
類型 地域魅力化型

#### 2 研究開発名

世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築

#### 3 研究開発の概要

- (1) PBL の実践を通じたカリキュラムとアセスメントの開発
- (2) 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬 SDGs ラボ」の設置
- (3) 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置

#### 4 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

- 学校設定教科・科目を開設している  
 教育課程の特例の活用している

#### 5 事業の実施期間

契約日～ 令和4年(2022年)3月31日

#### 6 令和3年度（2021年度）の研究開発実施計画

- (1) 仮説1 「学際的な教科横断型の学びとPBLが両立したカリキュラムを開発し，生徒が主体的に学びたくなる環境の整備を行うことで，探究的な学びが深まる。」の検証に関わる項目

<取組内容>

- ・PBLの実践を通して，カリキュラム，アセスメント開発
- ・教科横断型PBLの実施と育てたい生徒像に対応するアセスメントの完成

国際観光科1年

#### 【到達目標】

PBLを行うために必要な課題発見のための資料の読み込み，情報収集・分析，プレゼ

ンテーションの力を身に付ける。

【実施計画】

科目	学習内容	身に付ける資質・能力
白馬学	チームビルディング 地域課題に関する資料の分析	フォロアシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 社会への関心, 地域理解
異文化理解	多様性の理解, 文化の比較	多様性の尊重
総合英語	外国人とのコミュニケーション バスターミナルでの外国人旅行者へのインタビュー調査 英語でのプレゼンテーション	情報収集, 情報分析 プレゼンテーション
観光 I	PBL 地域を知るフィールドワーク (白馬駅周辺) 地域資源探し 観光の現状と課題について	地域理解 情報収集, 情報分析

国際観光科 2 年

【到達目標】

地域の観光に関わる課題の実践を通して解決策を考え, 提言できる。

【実施計画】

科目	学習内容	身に付ける資質・能力
白馬学	チームビルディング 地域の宿泊施設の方によるサービス接遇実習	フォロアシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 地域理解, 社会への関心
観光コミュニケーション英語	英語でのサービス接遇実習 地域の事業者による外国人向けドイツツアー実習 英語でのツアーガイド実習	プレゼンテーション
観光地理	観光地の自然, 地形, 文化的な特徴について	情報収集, 情報分析 基本的読解力
観光 II	PBL 白馬エリアのグリーンシーズンの魅力を伝えるにはどうしたらよいかを地域の観光事業者と考える	社会と自分の関係性, よりよい社会の創造

国際観光科 3 年

【到達目標】

地域課題を解決するための政策の企画と実践を通して, 既存のものを組み合わせて新たな価値を創造し, 論理性と倫理観を持って他者と協働して実践することができる。

【実施計画】

科目	学習内容	身に付ける資質・能力
白馬学	チームビルディング SDGs について 社会問題について	フォロアーシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 地域理解, 社会への関心
時事英語	英語での地域の情報発信	プレゼンテーション
日本史探究	歴史事象と現在を結びつけ, 未来を創造する	情報収集, 情報分析 基本的読解力
グローバル観光	PBL 地域課題の構造化, 解決策の提言, まちづくり, 観光政策の企画・運営	キャリアビジョン, 社会と自分の関係性, よりよい社会の創造

#### 普通科 1 年

##### 【到達目標】

基礎的な学力（読み書きの力，計算力，英語力）を身に付け，課題発見のための資料の読み込みや情報収集・分析ができる。

##### 【実施計画】

科目	学習内容	身に付ける資質・能力
代かきタイム	個別学習システムを使った基礎学習 (国語, 数学, 英語)	基本的読解力
現代社会	社会問題について	情報収集, 情報分析 基本的読解力
社会と情報	情報収集, 分析の仕方 プレゼンテーションの手法	情報収集, 情報分析 プレゼンテーション
総合的な探究の時間	PBL チームビルディング 白馬の現状と課題について	フォロアーシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 地域理解

#### 普通科 2 年

##### 【到達目標】

白馬の自然環境の特質を理解し, 内容について他者に分かりやすく伝えることができる。

##### 【実施計画】

科目	学習内容	身に付ける資質・能力
英語会話	外国人とのコミュニケーション 英語でのプレゼンテーション	プレゼンテーション
環境 I	白馬の自然環境 (植物, 生物, 大気) 自然環境と環境問題	情報収集, 情報分析, 社会への関心
数学 A	統計的な思考で各種データを見る	情報分析
総合的な探究の時間	PBL チームビルディング 白馬の自然環境についての情報発信	フォロアーシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 地域理解, 社会への関心

普通科 3 年

【到達目標】

地域課題を解決するための政策の企画と実践を通して、既存のものを組み合わせて新たな価値を創造し、論理性と倫理観を持って他者と協働して実践することができる。

【実施計画】

科目	学習内容	身に付ける資質・能力
総合的な探究の時間	チームビルディング 白馬の地域課題について	フォロアーシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 地域理解, 社会への関心
情報活用	ソフトウェアの活用法 これからの社会と ICT について	情報収集, 情報分析
野外と教養	自然体験活動 SDGs について	フォロアーシップ, 多様性の尊重, リーダーシップ, 社会への関心
環境 II	PBL 企業の CSR 活動と協働し, 日常生活と環境問題についての政策を企画し, 実践する	情報収集, 情報分析, 社会への関心

- (2) 仮説 2 「生徒と地域の人々がSDGsをテーマに学び, 実践活動を行う「白馬SDGsラボ」の設置とSDGsワークショップの開催, 及びSDGsの目標13「気候変動を軽減させる取組」の実践が探究的な学びの実現につながる。」の検証に関わる項目

<取組内容>

- ・地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬SDGsラボ」の開催
- ・浜松開誠館高校との交流事業を通じ, SDGsに関するプロジェクトの実践  
SDGsに取り組む全国の高校に呼びかけ, 白馬で高校生サミットを開催
- ・SDGsに関する出前講座の実践による, 学習内容の伝達と定着

- (3) 仮説 3 「地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬コンソーシアム」の設置, コンソーシアムの構成団体と連携した授業の展開」の検証に関わる項目

<取組内容>

- ・コンソーシアム構成団体と地域のDMO Hakuba Valley Tourism とともにSDGsをテーマにした商品開発の実施

- (4) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

ア 研究成果報告

- ・令和 3 年 11 月に学習・研究成果発表会を, 村内のウィング 21 で開催する。生徒, 保護者のほか, 地域の方, 県内外の学校関係者を招き, 代表者によるパネルディスカッションも行う。
- ・県教委主催「マイプロジェクト」および「SH フォーラム」における成果発表を通じて, 他校生徒・職員への情報発信および情報交換を行う。
- ・学校運営協議会および本校ホームページを通じて, 外部に対して事業の取組に関する

る情報発信を行う。

#### イ 事業成果の検証

- ・各教科（総合的な学習の時間を含む）および各学年・クラス単位で、生徒・保護者に対するアンケート調査を実施し、「身に付けたい資質・能力」がどの程度身に付いたのか、身に付いた力がどのようなところで活かされたか、これまでの取組が生徒の生き方や考え方にどのような影響を与えたかなどについて検証を行う。
- ・コンソーシアム参加企業関係者、白馬 SDGs ラボ参加者、生徒、職員に対するアンケート調査により、コンソーシアム体制が地域と連携した学びを進めるのにどのように機能したのかについて検証を行う。

#### <添付資料>

- ・目標設定シート
- ・令和3年度教育課程表

### 7 事業実施体制

課題項目	実施場所	事業担当責任者
(1)カリキュラム開発	本校	堀川元彰・中平聖子
(2)アセスメント開発	本校	カリキュラム開発等専門家 柳田優
(3)白馬 SDGs ラボの開催	本校・白馬村内	浅井勝巳
(4)浜松開誠館高校とのプロジェクト	本校・白馬村内	鈴木綾・中平聖子
(5) SDGs に関する生徒による出前授業	本校・白馬村内他	浅井勝巳
(6) SDGs をテーマにした商品開発	本校・白馬村内他	浅井勝巳
(7)コンソーシアム	本校・白馬村内	浅井勝巳
(8)校内実行委員会	本校	カリキュラム開発等専門家 柳田優

#### 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
白戸 洋	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科・教授	学校教育に専門的知識を有する者
岸 清美	白馬ロータリークラブ・会長 オーブス株式会社・代表取締役	地域学校協働活動を推進する者
柴田 友造	白馬山麓事務組合・支援局長補佐	関係行政機関の職員
伊藤 まゆみ	白馬村議会・議員	地域学校協働活動を推進する者

#### 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
松本大学総合経営学部	副学長・学部長 増尾 均
信州大学学術研究院教職支援センター	センター長 平野 吉直
白馬村	村長 下川 正剛
小谷村	村長 中村 義明
株式会社岩岳リゾート	代表取締役 和田 寛
八方尾根開発株式会社	代表取締役 倉田 保緒
しろうま荘	支配人 丸山 俊郎
ホテルシェラリゾート白馬	代表取締役 内海 二郎

